

## 天声人語

鬼って巨体。勝てるわけないよ。鬼ヶ島で桃太郎はおじけづく。それでもお供の犬と猿、キジの果敢さを見て、遅れて刀を振りあげる――。『桃太郎が語る桃太郎』という絵本を読む。

弱気な主人公像が新鮮だ▼おなじみの昔話を主役の気持ちで描き直す「1人称童話」シリーズの第1作だ。少し計算高い「シンデレラ」、飽き性の「浦島太郎」と続編も出た。「他者の気持ちにくむ格好の教材になる」と評価され、今年のグッドデザイン金賞に輝いた▼「主役を悪役に描き変えるパロディー化はしない。あくまで原作を敬う。視点を変える体験をしてもらうのが狙いです」と企画した久下裕二さん。本業は広告のコピーライターで、児童書作りは初めてという▼昔話といえど、人称が当たり前。「そのとき桃太郎は」「シンデレラの本心は」と語られる。それを「そのとき僕は」「私の本心は」と再構成してみる。いわば知的な「ごっこ遊び」だ。触発されて昔話を一つ練ってみた。たとえば「笠地蔵」▼ああ、年の瀬なのに、笠は一つも売れねえ。持って帰れば、ばあさんに叱られる。あれ地蔵さんが雪に埋もれておいでじゃ。「証拠隠滅に協力して下さい」。笠をかぶせて帰るべ。売り上げは落とし、たことにすっか▼おじいさんを恐妻家に見立てたつもりだが、試してみると、思っていたよりずっと難しい。それでも絵本の世界に入り込む過程が心地よい。「白雪姫」「一寸法師」「ウサギとカメ」。皆さまもぜひ一度お試しあれ。